

みどりの女神賞

埼玉県立 秩父農工科学高等学校 森林科学科

取組の名称	学校演習林ヒノキ間伐材の有効利用とヒノキ間伐材ベンチの寄贈	
取組の概要	実習で生徒が間伐、玉切り、搬出をした間伐材を学校の授業でベンチに加工する。完成したベンチを秩父市の羊山公園芝桜の丘に設置寄贈する。その他東北被災地の仮設住宅や埼玉県、東秩父村に寄贈している。	
取組のきっかけ	学校演習林の間伐の促進及び人工林における間伐の重要性のPR ヒノキ間伐材の有効利用、ものづくりの喜びを体験する。地域の発展に貢献する。自分の生まれ育った故郷を愛する心を醸成する。	
取組内容・特徴	秩父市へのベンチ寄贈・・・平成19年から今年で12年目（合計113台寄贈） 東北被災地仮設住宅等・・・16台寄贈 埼玉県等・・・7台寄贈 ベンチには「校名、科名、演習林ヒノキ間伐材」の焼印が押してある。	
実行体制・安全対策等 (他団体との連携状況を含む)	演習林実習で1年生（ヒノキの植林、除伐等）、2年生（枝打ち、間伐等）、3年生（間伐、搬出等）をヘルメット着用の上、安全には万全を期して実施している。生徒は年に一度東京チェーンソーズから安全な山仕事の現地指導を受けている。	
実績	除間伐実績	長年にわたって、年間に5日程度設定されている長瀬演習林実習において60から80本程度のヒノキ（25から30年生）を生徒が手作業で間伐している。
	環境教育	人工林における間伐の重要性を生徒に周知徹底理解させるとともに、日差しが万遍なく降りそそぎ、下草が生い茂る健全な森づくりを生徒に力説している。
取組による効果等	秩父農工間伐材ベンチは秩父市民に広く浸透しており、芝桜を見学した市民の方からお礼の手紙やはがきを毎年頂いている。また被災地の方からも同様に感謝された。間伐材ベンチ寄贈は毎年マスコミに大々的に取り上げられている。全国の農林高校で同様の間伐材ベンチ寄贈が実施されているが本校はその先駆者であると自負している。	
製品等の写真、図表	 <p>写真1の説明 間伐材搬出風景</p>	 <p>写真2の説明 ベンチ組立て風景</p>

連絡先等	(住 所) 〒368-0005 埼玉県秩父市大野原2000 (担当部署等) 森林科学科 (電話番号等) TEL: 0494-22-3017 FAX: 0494-21-1040 (URL) http://www.chichibunoko-bh.spec.ed.jp
------	--

<p>評価コメント</p>	<p>○【みどりの女神のコメント】 間伐材を使うことだけで満足していない点がポイントでした。 地元の材を、地元の高校生が加工し、地元の人たちが使い、地域全体が幸せになる。 このサイクルに非常に感銘を受けました。教育を受ける側としてもとてもやりがい がありますし、工作することを通じて林業の背景や間伐の重要性もあわせて学ぶこと で、学生は自信を持つことが出来ると思います。 林業の担い手として若者への世代交代をすすめたい現在の日本の情勢ともマッチし た、素晴らしい取り組みと思います。 高校生ほどの年齢なら木材を扱った経験を持てば、将来林業に進まなくても、木を 利用して自分で作ってみようという自信と経験にもなります。 最後に、12年も続けていることが素晴らしいです。 上記で述べたような機会が、12年分の学生に行われていることに感心しますし、 その機会が将来を考え始める高校生に提供されているということに強い意味を感じ ます。</p> <p>○ 学校演習林のヒノキ間伐材でベンチを製作し、2007年から、秩父地域に寄贈するこ とを継続的に実施したり、東北の被災地へ寄贈すること行っている。ヒノキ間伐材の有 効利用活動の継続性は評価される。</p> <p>○ 単なる学校演習林での間伐、製品づくりの発想に止まらず、間伐材ベンチを通して 地域振興や被災地復興を意識した教育的な啓蒙、さらに、生徒の世代に比較的近い近 隣の若手林業家会社と連携する試みなど、林業の社会的意義の啓発や林業家育成に発 展性を見いだせる。郷土愛の醸成やモノづくりの喜びを軸に、生徒の生活現場を足場 に、ヤマ（間伐現場）から下流域までを俯瞰する視点を受容性の強い時期に育む意味 は大きい。</p> <p>○ 実践・学習と地域貢献が同時に達成されている。</p>
---------------	--